

(別紙様式6)

## 平成 29 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究  
産学官連携フュージビリティ・スタディ  
共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 北極域における人新世の生業システム

研究期間: 平成 29 年度～平成 29 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	近藤祉秋	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 助教
研究分担者(拠点外)	大石侑香	東北大学東北アジア研究センター／学術振興会特別研究員 PD
	野口泰弥	北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課／北方民族博物館グループ学芸員
研究分担者(拠点内)	立澤史郎	北海道大学文学部地域システム専攻 助教
	的場澄人	北海道大学低温科学研究所 助教
研究協力者	ヘザー・スワンソン	オーフス大学人類学科 准教授
	合原織部	京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程

### 【研究の内容】

本共同推進研究(以下、本研究と表記する)は、北極域に居住する諸社会を対象として、(1)気候変動・グローバル化への適応、および(2)北極域と南にある工業社会との関係という視点から北極域における環境と人間の相互作用を明らかにすることを目的としていた。平成 29 年度は、本研究の第二年度にあたり、前年度の共同推進研究(「北極域の人類社会における生業と大規模な変化への適応」)で得られた基礎的なデータをもとにしながら、地域間の比較、共通テーマを掘り下げて行く作業をおこなった。

本研究では、北極域の生態系が気候変動の影響を受けるなかで、自然資源を利用する先住民社会および伝統的社会がみずからの生業活動を変化させる必要に迫られる場合があることが改めて確認された。ただ、現地コミュニティの適応は、生業の機械化、漁業規制、資源採掘など、外部との関わりによってより複雑な状況を呈することが多い。本研究の討議において、北極域と南との関係性を媒介し、可能とするようなインフラストラクチャーに注目することの重要性が明らかになってきた。北極域における環境と人間の相互作用を考える上では、気候変動のおもな原因を作り出し、かつ、さまざまな面で北極域に関心を抱く南の大規模社会がどのような具体的な手段・物を介して、北極域との関係性を構築・維持しているかを無視することができない。上で指摘したような「つながり」を理解してはじめて、北極域の諸社会が主体的に文化的生存をはかろうとする状況を十全に描写することが可能となる。

本研究では、このような討議を受けて、以下のようなリサーチクエッションに焦点化した議論を来年度から進めていきたい。「現在の北極域に生きる先住民族・および伝統的コミュニティの人々は、ある文化集団の一員として、南の社会との関係をうまく調整しながら、変動する北極域の自然環境のなかでいかに自律性を保って生きようとしているのか」、そして、「そのような状況に対して、日本の研究者が貢献できることがあるとすれば、それはどのようなことであるか」。

最後に本年度における各人の研究内容について簡単に紹介する。大石侑香は、北方少数民族のハンティの漁撈と漁規制の問題に関して、昨年度行った現地調査データの分析及び文献調査を行った。合原織部は、J-Arc Net が主催する人材育成講座ウィンタースクールに参加し、サハ共和国での現地調査を実施するための人脈作りをおこなった。近藤祉秋は、研究協力者ヘザー・スワンソンらと人新世における人と自然の関係に関する文献講読をおこない、理論的研究を進めた。野口泰弥は、カナダ・ユーコン準州の北トウショールニ社会での生業活動に関する予備調査を実施した。的場澄人は、グリーンランドカナックにて2016年12月に生じた強風による海氷流出とそれに伴う漁業被害と補償に関する聞き取り調査を行った。

#### 【研究論文や著書等】

※以降、本研究に関わる研究者の氏名に下線を引いて示す。

- 1) 大石侑香. 2017. 禁じられた漁の裏側: オビ川支流域における遡河魚産卵地の漁規制とハンティ. 北海道立北方民族博物館友の会・機関紙「Arctic Circle」, Vol. 105., 4-9. (査読無)
- 2) 大石侑香. 2017. シベリア・オビ川の回遊魚の減少をめぐる在来知と科学的知見. 生態人類学会ニュースレター, 生態人類学会, Vol. 23., 39-41. (査読無)
- 3) 大石侑香. 2018. 西シベリア森林地帯における淡水漁撈とトナカイ牧畜の環境利用. 高倉浩樹編. 寒冷アジアの文化生態史. 古今書院, pp. 70-91. (査読有)
- 4) 近藤祉秋. 2017. ボブ老師はこう言った: 内陸アラスカ・ニコライ村におけるキリスト教・信念・生存. 社会人類学年報 Vol. 43, pp.57-78. (査読有)
- 5) 近藤祉秋. 2017. 石油時代のアラスカ先住民社会: 自然・人・産業. 寒地技術論文・報告集 Vol. 33, 論文番号: 北極 5, pp.18-23 (CD-ROM での配布). (査読無)
- 6) 近藤祉秋. 2018. 今日の民族誌 (pp. 26-29)、ケア (pp. 76-79)、野生生物管理と人類学 (pp. 80-83)、現代の民俗学 (pp. 108-111). 奥野克巳・石倉敏明 (共編). Lexicon 現代人類学以文社. (査読無)
- 7) レーン・ウィラーズレフ. 2018. ソウル・ハンターズ—シベリア・ユカギールのアニミズムの人類学. 奥野克巳・近藤祉秋・古川不可知訳、亜紀書房. (査読無)
- 8) 野口泰弥. 2018. ウラル・シベリア型ヒモバネ式罟と北米地域への普及経路について. 北海道立北方民族博物館研究紀要. Vol 27, pp. 27-52. (査読有/近刊予定)
- 9) Niwano, M., T. Aoki, A. Hashimoto, S. Matoba, S. Yamaguchi, T. Tanikawa, K. Fujita, A. Tsushima, Y. Iizuka, R. Shimada and M. Hori (2018): NHM-SMAP: spatially and temporally high-resolution nonhydrostatic atmospheric mode coupled with detailed snow process model for Greenland Ice Sheet, The Cryosphere, 12, 635-655. doi:10.5194/tc-12-635-2018. 査読有
- 10) Hara, K., S. Matoba, M. Hirabayashi and T. Yamasaki (2017): Frost flowers and sea-salt aerosols

over seasonal sea-ice areas in northwestern Greenland during winter-spring, *Atmos. Chem. Phys.*, 17, 8577-8598, doi: 10.5194/acp-17-8577-2017. 査読有

- 11) Furukawa, R., R. Uemura, K. Fujita, J. Sjolte, K. Yoshimura, S. Matoba and Y. Iizuka (2017): Seasonal-scale dating of a shallow ice core from Greenland using oxygen isotope matching between data and simulation, *J. Geophys. Res.*, 122, 19873-10887. doi:10.1002/2017JD026716. 査読有
- 12) Iizuka Y., R. Uemura, K. Fujita, S. Hattori, O. Seki, C. Miyamoto, T. Suzuki, N. Yoshida, H. Motoyama and S. Matoba (2018): A 60 year record of atmospheric aerosol depositions preserved in a high-accumulation dome ice core, southeast Greenland, *J. Geophys. Res.*, 123, 574-589. doi:10.1002/2017JD026733. 査読有

#### 【研究発表】

- 1) Yuka Oishi. 2017. Fishing-Pastoralism Theory. International Congress of Arctic Social Science IX (ICASS IX), 2017年6月9日, ウメオ市ウメオ大学. (ポスター発表)
- 2) Yuka Oishi. 2017. Subsistence Complex and the Environmental Use of Khanty in Western Siberia: Crossing the boundary between fishing and reindeer pastoralism. The 2nd Collaborative Symposium for Early Career Researchers, Thinking across Boundaries: The Fluidity of Asia, Africa and Beyond, 2017年9月19日, ロンドン市 SOAS. (口頭発表)
- 3) 大石侑香. 2018. モーターボート・レボリューション:西シベリア・ハンティの川筋集団と協働実践の変容. JCAS 次世代ワークショップ「内陸の<水一人>関係再考: 河川湖沼と人間の相互関係から新たなユーラシア地域研究枠組みを探る」, 2018年1月7日, 仙台市東北大学. (口頭発表)
- 4) Yuka Oishi. 2018. Why do Khanty Choose to Wear Fur?: Fur-Wearing Culture and Use of Wild/Domesticated Animals. ISAR-5, 2018年1月16日, 東京都一橋講堂. (口頭発表)
- 5) Yuka Oishi. 2018. Safety net which pensioners and motorboats set: an ethnographic point of view to the problem of fishing restriction in Synia River of Western Siberia. Japan-Russian Workshop: New Trends of Ecological-Environmental Anthropology of Northeast Asia, 2018年3月9日, 仙台市東北大学. (口頭発表).
- 6) 大石侑香. 2018. 狩猟から養殖へ:19世紀における肉食毛皮動物の家畜化とその広がり. 生態人類学会第23回研究大会. 2018年3月24日, 南城市ユインチホテル南城. (ポスター発表)
- 7) Takaki Aihara, Oribe Gohara, Mamiko Shimizu, Tetsuto Sugai, Shinya Takano 2018. Thinking about garbage issues with human and nature relationships in Sakha 2018年3月3日 サハ共和国. (口頭発表)
- 8) 近藤祉秋. 2017. 共に住まうこと:内陸アラスカにおける鳥と人の刹那的な絡まり合い. 日本文化人類学会第51回研究大会. 2017年5月27日, 神戸市・神戸大学鶴甲キャンパス. (口頭発表)
- 9) Kondo, Shiaki. 2017. Multispecies Engineers: Politics of (Un)Making Fishing Places in Interior Alaska. 9th International Congress on Arctic Social Sciences. 2017年6月10日, ウメオ市ウメオ大学. (口頭発表)
- 10) 近藤祉秋. 2017. ポトラッチからクリスマスへ:内陸アラスカにおけるロシア正教の受容と狩猟文化シベリア学会第3回研究大会. 2017年6月17日. 新潟市新潟大学駅南キャンパス. (口頭発表)

- 11) 近藤祉秋. 2017. ワタリガラスの犬肉食:神話の生態学的解釈をめぐって. 早稲田文化人類学会 第20回研究集会. 2017年7月8日, 東京都・早稲田大学戸山キャンパス. (口頭発表)
- 12) 近藤祉秋. 2017. ボブ老師はこう言った:内陸アラスカ・ニコライ村におけるキリスト教・信念・生存. 世間話研究会7月例会、2017年7月9日東京都・成城大学. (口頭発表)
- 13) 近藤祉秋. 2017. 先住民研究とメディア:今後の研究のための覚え書き. 平成29年度メディア・コミュニケーション研究院共同研究プロジェクト「メディアと社会のエスノグラフィー」第1回研究集会. 2017年7月21日, 札幌市北海道大学. (口頭発表)
- 14) 近藤祉秋. 2017. 生業と伝統食文化の継承:北海道とアラスカの比較から. 日本食生活学会第55回大会. 2017年10月29日, 札幌市天使大学. (口頭発表)
- 15) Kondo, Shiaki. 2017. Culture Camps: Regional Cooperation for Indigenous Education in Alaska. 8th Pacific Rim Conference on Education, 2017年11月4日札幌市カデル 2.7 Kaderu 2.7. (口頭発表)
- 16) 近藤祉秋. 2017. 石油時代のアラスカ先住民社会:自然・人・産業. 第33回寒地技術シンポジウム. 2017年12月1日, 札幌市札幌コンファレンスセンター. (口頭発表)
- 17) Kondo, Shiaki. 2017. Multi-Keystone-Species Ethnography: Anthropocene and Salmon-Human Entanglements in Alaska. International Symposium on Environment, Development and International Relations in the Arctic (ArCS Theme 7). 2017年12月12日, 札幌市北海道大学. (口頭発表)
- 18) Kondo, Shiaki. 2018. Knowing Salmon: Toward a Collaboration between Anthropology and Conservation Ecology. 5th International Symposium for Arctic Research. 2018年1月16日, 東京都・一橋講堂. (口頭発表)
- 19) Kondo, Shiaki. 2018. Revitalization of Subsistence Activities in Alaska and Beyond. Hokkaido University - Umeå University Exchange Seminar. 2018年3月1日, ウメオ市・ウメオ大学. (口頭発表)
- 20) Kondo, Shiaki. 2018. Visions on Provisions: Revitalization of Subsistence Activities in Interior Alaska. JSPS Core-to-Core Program “Advanced Core Research Center for the History of Human Ecology in the North” 5<sup>th</sup> Workshop of Biological Anthropologists. 2018年3月23日、オックスフォード市・オックスフォード大学. (口頭発表)
- 21) H. Noguchi and S. Kondo. 2018. ”Daggers and Change in Value of Copper” Fifth International Symposium on Arctic Research (ISAR-5) 第5回国際北極研究シンポジウム. 2018年1月16日. 東京都一橋講堂. (ポスター発表)
- 22) 的場澄人. 2016年12月に生じたカナックでの海氷流出と漁業被害、国立極地研究所共同研究集会「グリーンランド氷床の変動と気候・環境変動の関わりに関する研究集会」, 2018年3月27日, 国立極地研究所、立川市. (口頭発表)

#### 【アウトリーチ、取材、その他】

- 1) 大石侑香. 2017.4-現在 シベリアの大地で暮らす人々に魅せられて:文化人類学のフィールドワークから. 三省堂 word wise web. (ウェブ・エッセイ連載)

- 2) 近藤祉秋. 2017. 講座 狩りを学ぶ、文化を伝える:アラスカ先住民社会の文化復興と野外教育.  
2017年11月18日, 網走市・北海道立北方民族博物館. (市民向け講座)
- 3) 近藤祉秋. 2018. 日本科学未来館・サイエンティストクエスト特別編「どうなる? 北極～海と生きものと私たち」 「研究者と話そう」での解説, 2018年1月8日, 東京都・日本科学未来館. (アウトリーチ)
- 4) 野口泰弥. 2017. 展示 「北のメカニクス—狩猟ワナの仕組み—」2017年10月28日～11月26日.  
北海道立北方民族博物館. (学術展示)
- 5) 野口泰弥. 2017. 解説 「ロビー展展示解説会」 2017年11月4日. 北海道立北方民族博物館.
- 6) 野口泰弥. 2017. 展示の取材「知恵の宝庫狩猟ワナ紹介」読売新聞北海道版, 2017年10月27日  
31面, 「網走で狩猟ワナ展」読売新聞北海道版, 2017年11月6日27面, 「狩猟わな実物、模型で紹介」北海道新聞オホーツク版, 2017年11月11日18面.
- 7) 野口泰弥. 2018. 受賞 “Young Scientists Poster Award of Excellence” in ISAR-5, 2018年1月18日, 東京都一橋講堂(上記【研究発表】21に対して).
- 8) 平松和彦, 的場澄人. 2018. ”雪の結晶”は戻ってきますか?・・・六花型ブーメランを作って飛ばそう. 科学の祭典札幌冬の大会. 2018年2月18日、主催:サイエンススパークス、札幌ドーム、札幌市.
- 9) 的場澄人. 2018. グリーンランドの人々の暮らし. 雪と氷の不思議な世界、講演・体験学習会. 2018年3月7日、主催:上札内交流館事業、上札内交流館、中札内村.